

子どもたちの明日

Children, Our Future

2016年12月

119号

目次

- ・スバイドムナック村の幼稚園、開園 1頁
- ・変化するカンボジア 2頁
- ・「ゆでたまご募金」～500円で6人の子どもたちにゆでたまごが届きます～ 4頁

1

スバイドムナック村の幼稚園、開園

2016年11月1日、CYK（当会カンボジア事務所）は11ヶ所目の「村の幼稚園」*を、カンボジア・カンダール州スバイドムナック村に開設しました。村の主な産業は農業。稲作やヘチマ・空芯菜などの野菜作りが行われています。村では、何頭もの牛をロープでつなぎ、自分の体の何倍も大きな牛を連れて歩く子どもたちをよく見かけます。

開園から約1ヶ月、村の幼稚園には、隣村の子どもたちも含めた73名が通園しています。教室が狭く園児が入りきらないため、CYK運営の幼稚園では初めて、午前と午後の2部制での運営です。保育者は2名、スレイ・ゲックシム先生（28歳）とケム・ヴァンナリー先生（63歳）です。スレイ先生は2人の子どもを持つお母さんで、男の子（13歳、小学2年生）と女の子（10歳、小学3年生）を育てています。幼稚園の先生になるにあたり、次のように語ってくれました。「以前、工場で働いている時は両



初めてのお人形遊び。布製の人形に手を合わせて挨拶をする女の子。

親に子どもを預けていたので、子どもたちは学校に通っていませんでした。これからは、小学校の敷地内にある幼稚園で働くことで、村にいて子どもたちと一緒に暮らし、学校にも通わせてあげられるのでとても嬉しいです。そして、ケム先生も「幼い頃から先生になりたかったけれど、生活が苦しかったので進学できず、夢を諦めました。村に幼稚園ができると聞いて、先生として働く夢を叶えられる良いチャンスだと思い、応募しました。これまで助産師など子どもと関わる仕事をしてきたので、経験を活かして教えたい」と語り、幼児教育への意欲を見せてくれました。

現在、幼稚園では大勢の子どもたちが2人の先生に見守られて楽しく過ごしています。子どもを幼稚園に送ってきた保護者や小学校の先生も、窓から子どもたちの様子を嬉しそうに覗いていきます。休み時間になると小学生が幼稚園にやってきます。机と椅子、黒板だけの殺風景

な教室で勉強ばかりという小学校に比べて、絵本や遊具を自由に触られる幼稚園は、これまで幼稚園に通ったことのない小学生にとって魅力的なようです。特に、絵を描きたいという小学生が多く、これまでそのような機会に恵まれなかった子どもたちはお絵かきに夢中になり、時間を忘れるほど集中してお絵かきをしています。多くの村人に見守られた幼稚園で、今後、多くの子どもたちが学び、巣立つことを期待しています。

* CYR/CYKが行う保育事業のひとつ。1日3時間の短時間保育を行う幼稚園。CYKの支援は基本的に3年間とし、4年目以降は地区が中心となって運営する簡易な幼稚園。



2

変化するカンボジア

内戦終結から25年が経ち、近年、カンボジアはどんどんと変化しています。私たち、幼い難民を考える会(CYR)も、常にカンボジアの人々にとって必要なことを考え、寄り添いながら活動を続けてきました。大きく変化するカンボジア社会を、東京事務所職員の視点からお伝えします。

かつてはのどかだった農村地帯

1980年にタイ国内のカンボジア難民キャンプで産声を上げたCYRは、1991年よりカンボジアに拠点を移し、活動を続けてきました。当時のカンボジアはほとんどが農村、首都プノンペンも中心部から少し離れると雄大で美しい田園風景が広がっていました。1991年に開設し、現在でもCYR/CYKが運営支援を続けるプレイタ

トゥ保育所があるカンダール州も、設立当初はのどかな農村地帯で、保育所に通う子どもたちの保護者の多くは農業に従事していました。

外国資本の進出と土地バブル

2000年以降は、カンボジアを取り巻く環境に大きな変化が見られるようになります。内戦後の混乱が収束されつつあったうえ、環境を規制する法整備が進んでいなかったことから、軽工業の生産拠点が近隣の国々からカンボジアへ移されるようになったと言われています。

その後、華僑を中心とした外国資本によるカンボジア進出が本格化するのに伴って、首都プノンペンでの不動産への投機熱が高まり、市内の地価が高騰することになります。その結果、プ

ノンペン市内と比べ広大な土地を安価で借りられることから、多くの工場がプノンペン周辺の州に広がっていきました。CYRの活動地であるカンダール州やタケオ州も例外ではなく、活動の対象となっている村の周辺には、現在たくさんの工場が立ち並んでいます。

活動地で起こった変化

工場が農村部に移設された結果、小さな子どもを持つ親たちの職業は、農業から賃金労働者に変わりました。各世帯の収入は上がりましたが、同時に支出も増え、また保護者が子どもと一緒に過ごせる時間が減りました。このような環境の変化が、農村部での保育施設の必要性をますます高めています。

また、農村部への工場の建設は、CYRの活動のもうひとつの柱である

藍染めを村の産業として復興させようと励む女性たち（コンボンチャム州アンコールバーン村）





(上) 子どもたちが遊びながら学べる「村の幼稚園」(タケオ州トロビエンクロライン村)

「織物事業」にも影響を与えています。これまで、CYRは「女性の自立支援」を目的に、農業で生計をたてる世帯の女性に向けた織物研修を実施してきました。しかし、最近では工場での賃金が上昇し、研修で高度な染織技術を得ても、より多くの現金収入を求めて工場で働くケースがみられます。

今後の支援に向けて

カンボジア政府は、幼児教育の充実が将来の貧困削減に繋がるとして、幼稚園の開設に積極的な姿勢を見せていますが、現在でも幼児教育を受けられる3～5歳児は33%に留まっています。これまでCYRは、朝ごはんと昼食付きで一日保育を提供する保育所の運営に力を入れてきました。現在は、幼児教育を受けられる子どもの数を増やすとともに、村人による自立した運営を目指す、「村の幼稚園」の開設に力を注いでいます。「村の幼稚園」での保育は1日3時間のみではありま

(右) 現在、11ヶ所ある「村の幼稚園」では300名以上の子どもたちが学んでいる



すが、小学校入学後の子どもたちの立ち居振る舞いの変化が、小学校の先生から報告されるようになってきました。

また、織物事業もその目的を「伝統文化の保全」に変えつつあります。かつて、カンボジアの農村で盛んに織られていた伝統織物も、長い内戦を経て、その技術は失われかけていました。活動地のひとつであるコンポントラム州アンコールバーン村では、藍

染め技術を復活させる試みを村人とともに進めています。

CYRはカンボジアの社会変化に臨機応変に対応し、今後も現地の人々に最も必要とされる支援を行いたいと考えています。教育や文化という、結果が出るまでに時間がかかる支援ではありますが、是非CYRの活動をご理解いただき、末永くご協力をお願いいたします。

3 「ゆでたまご募金」 ～ 500 円で 6 人の子どもたちにゆでたまごが届きます～

CYR はこれまで、幼児期は「人生の基礎をつくる大切な数年間」と考え、国の政策が行き届かない地域で、子どもたちが教育を受けられる場所づくりを進めてきました。また、運営支援を行う「村の幼稚園」や保育所ではクッキーや豆乳などを提供し、子どもたちの栄養状態の改善にも取り組んでいます。今後はさらに栄養価の高い軽食を提供して子どもたちの成長を支えるために「ゆでたまご募金」を開始します。

近年、目覚ましい発展を遂げるカンボジアですが、農村部では多くの人が昔と変わらず厳しい生活を続けています。中には、住民の 7 割が 1 日 165 円以下の収入で暮らす村もあります。そのような農村に暮らす子どもたちの栄養状態はまだまだ良好とは言えず、現在でも幼児の 4 割は低体重・低身長に悩まされています。農村の家庭では、ご飯と野菜や川魚など少しのおかず、スープという質素な食事が一般的で、栄養が不足しがちです。

完全栄養食品と呼ばれるゆでたまごは、タンパク質などの栄養価が高いうえに消化しやすく、何よりも子どもたちが簡単に、おいしく食べられます。しかし、カンボジアでは卵は高価なため、子どもたちはあまり口にする機会がありません。時々、保育所や幼稚園でおやつにゆでたまごが出ると、持ち帰って家族と分



けて食べるという子どももいるほどです。

「ゆでたまご募金」で寄せられる募金は、CYR が運営支援をする保育施設に通う子どもたちへのゆでたまご提供に使わせていただきます。ゆでたまご 1 個を提供するのに必要な費用は、約 78 円。これには卵の購入費、担当する村人の労賃、水代、燃料費等が含まれています。

ゆでたまごを子どもたちに配る時には殻がついたまま渡します。ゆでたまごが大好きな子どもたちは難しい殻むきにも真剣。手先を使う訓練になるだけでなく、小さな子どもたちの分は年上の子が

手伝ってあげるなど、助け合いも生まれます。さらに、ゆでたまごは子どもたちにとって保育所や幼稚園に来るきっかけであり、大きな楽しみのひとつにもなります。

小さなたまご 1 個ですが、子どもたちの成長を支えるとともに、子どもたちと教育を結び、希望に満ちた将来と豊かな国づくりに繋がる大きな力があると信じて、「ゆでたまご募金」を開始いたします。多くの皆さまにぜひお知らせいただき、温かいご支援をよろしくお願いいたします。

CYR 情報

寄付金控除証明書の送付

平素より温かいご支援を賜り、ありがとうございます。寄付金控除証明書の発送は 1 月下旬を予定しています。お手元に届くまでどうぞしばらくお待ちください。

東日本大震災被災地支援「地震募金」を終了いたします

これまで頂戴しました温かいご支援に、心より感謝申し上げます。

年末年始は下記の通り、お休みさせていただきます

平成 27 年 12 月 29 日(火)～平成 28 年 1 月 3 日(日)
※年始は 1 月 4 日(月)より、通常通り業務いたします。

Facebook に活動の様子を掲載しています

<https://www.facebook.com/NPOCYR>

子どもたちの明日 119 号

発行日：2016 年 12 月 10 日 発行者：廣戸 直江

特定非営利活動法人幼い難民を考える会

東京事務所 (CYR)

〒110-0016 東京都台東区台東 1-12-11 青木ビル 2A

TEL: 03-6803-2015

FAX: 03-6803-2016

Email: info@cyr.or.jp

URL: <http://www.cyr.or.jp/>

プノンペン事務所 (CYK)

#170, St.63, Boeung Keng Kang I, Khan Chamkarmorn, Phnom Penh, Cambodia

TEL: (+855) 23 210849

FAX: (+855) 23 210849

Email: info@cyk.org.kh

URL: <http://cyk.org.kh/>

幼い難民を考える会 (CYR) は認定 NPO 法人です。
ご寄付は税制優遇措置の対象となります。